

2025年度

Peach Women's Business School

第11回

登壇者：帝塚山学院大学 リベラルアーツ学部 教授
Link Next 社会研究所 所長
飛河 智生氏

講演テーマ：「世界の動向とグローバル思考」

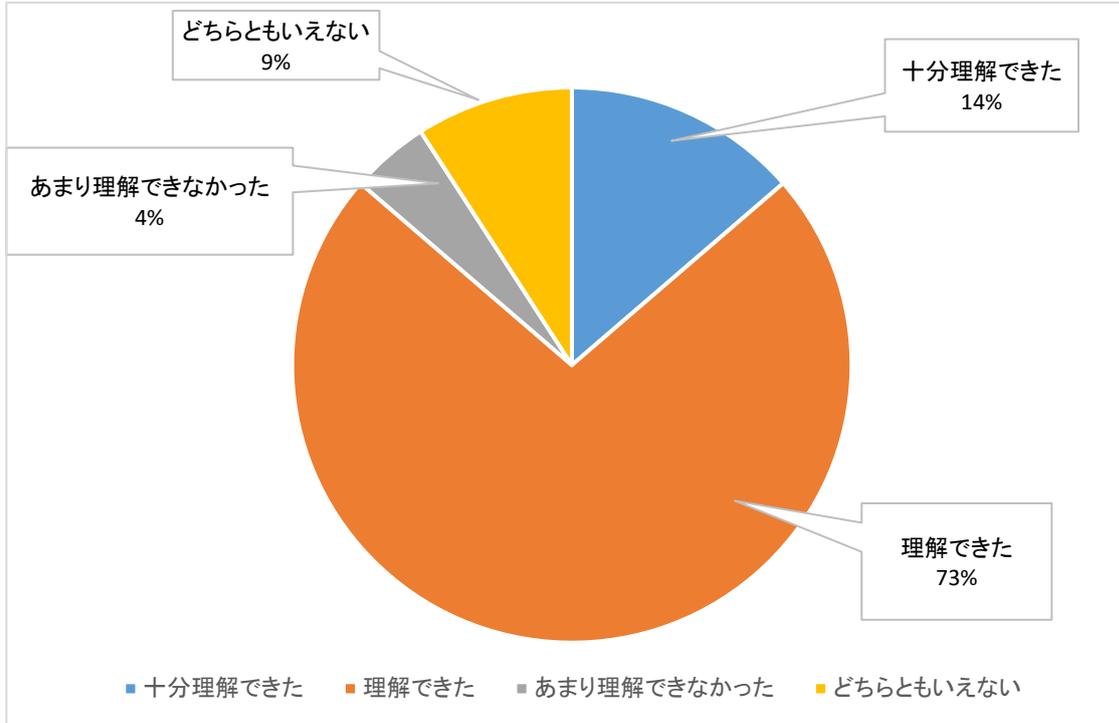
2025年度PWBS 第11回アンケート集計結果

研修日：2025年12月18日(木)

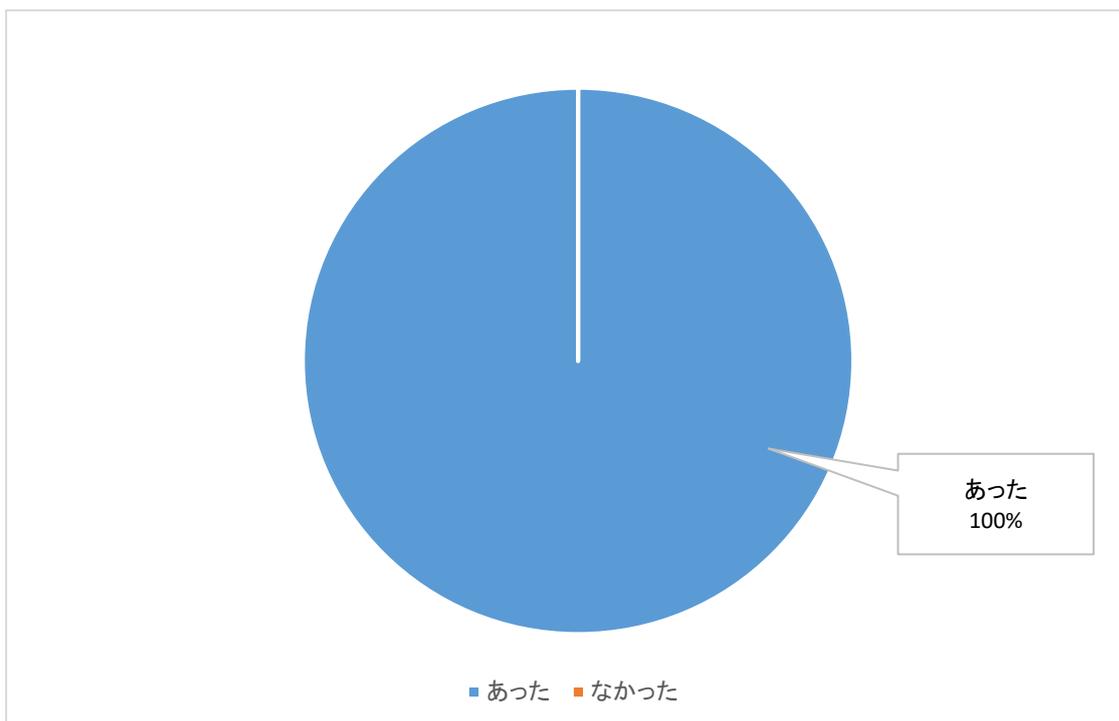
登壇者：帝塚山学院大学 リベラルアーツ学部 教授、Link Next 社会研究所 所長 飛河 智生氏

講演テーマ：「世界の動向とグローバル思考」

(1) 本日の講義の理解度はいかがでしたか。【十分理解できた、理解できた、あまり理解できなかった、どちらともいえない】



(2) 本日の講義から学んだ点、気づいた点はありましたか。【あった、なかった】



あった方はどのような点かご記入ください。なかった方はその理由をご記入ください。

特に印象的だったのは、「物事を捉えるスケールを変える」という考え方です。1年・15年・100年など複数の時間スケールで世界や社会の動きを捉えることは新鮮でしたが、短期的なニュースや技術トレンドは1年単位で、産業構造や人口動態の変化は15年・100年単位で見る必要があるなど、トピックによってスケールを変えることの重要性を実感しました。また、世界は均質ではないため、影響度の大きさによって情報の優先順位や深さを変えるべきという点も、今後の情報収集や分析に活かしたいと思いました。

出来事を自分の時間スケールで判断してしまいがちですが、トピックスによってそれぞれ理解に適したスケールがあることを学びました。また、グループ内で理解しやすい時間スケールについてディスカッションしたときに、人によって選ぶものが違ったので、それぞれの嗜好もあると感じ、適したスケールを選択することを意識してトピックスを俯瞰しようと思いました。

松田社長が講習最後におっしゃられていたように、多角的なものの見方、情勢を常に把握していることは社会人としての一般常識であるということの再確認。

15年スケールでも世界が大きく変化していることがよくわかりました。変化が身近に迫っていることが感じられ、社会の動向に対して、高い関心を持つ必要性を改めて認識しました。

「世界を見るときは、距離によって優先順位をつける」というお話が特に印象に残りました。ネットで世界は狭くなったとはいえ、やはり物理的な距離は影響するのだということを改めて認識しました。

アリストテレスの時代から人間はウェルビーイングを目指してきたということが印象出来でした。今年の流行語大賞となった「働いて×5」というワードで、経済発展のためには本当はもっと働く必要があるのではないかと考えるようになっていましたが、たくさん働いても、ワークライフバランスを大切にしても、結局のところ「幸福感」を得られ、「ウェルビーイング」な状態であれば良い、問題ない、と考えることができるようになりました。

人生をスケールで考えるというお話がとても印象に残りました。15年スケールで時代を切り取っていくと、思っていたより時代が大きく変わっていることに驚きました。また、人生を15年スケールで区切ったときの、各スケールの説明が自分自身にとっても当てはまっていると感じました。

時間軸で出来事を見ることについて、どの時間軸で設定するかで見えてくるものが全く違うということに気づいたから。

時間軸を捉えるスケールの話は、自身にあまりなかった考え方でとても勉強になりました。考えるべきテーマによって、使うスケールの切り替えが必要だということも、変化が目まぐるしい現代においてとても重要だと感じました。

なんとなくニュースで把握しているつもりでいた世界の出来事も、各国の歴史的背景や地政学的な視点を交えると、異なる見方ができることに気づかされました。また、時間スケールを柔軟に切り替えることで、見えてくるものが変化するという点も大きな発見でした。このような多角的な視点を持つことで、変化のスピードが速い現在においても、状況を正確に理解し対応できると感じました。アドバイスいただいた「変化をチャンスと捉える」という考えを忘れず、情報収集と分析を怠らず、柔軟に対応できる準備をしていきたいと思いません。

- ・短い講義時間で、過去から現在まで & 主要国の歴史や背景についてお話いただき大変勉強になりました。やはり政治の背景にある宗教は、重要だと感じました。
- ・ただ情勢を理解するだけでなく、独自の「スケール」を持って内容を捉え読み解く必要がある、ということも自分にとって学びとなりました。

時間スケールで鳥瞰した世界の変位がとても面白かったです。いまの状態が未来永劫続かないことが良くわかりました。これからの5年後、10年後がどう変化するか楽しみです。その変化に対応できるよう、社会に関心を持ち、変化に対応する準備に努めます。

各国の出来事についてはこれまではニュース等で知る部分的な側面しか見えていなかったように思います。「世界を距離で読む」という考え方は新鮮で、近い国ほど深く、遠い国は広く捉えることで、優先順位を意識する重要性を学びました。

「鳥瞰する」ことの大切さを改めて感じました。普段目にしている情報は、無意識に自分の興味があるものに偏っていて、その瞬間だけで捉えてしまいがちでした。しかし、時間軸を意識して過去や未来まで視野を広げると、同じ情報でもまったく違う意味や背景が見えてきます。そうすると、新しい視点が生まれて、より深く考えられるようになると思います。これからはニュースを見ると、その出来事の過去や将来についても考えるように意識していきたいです。

世界の動向や各国の文化・経済の特徴を知ることで、日本だけに見えない点があることを実感しました。「現在から過去をみる」という考え方は将来予測やビジネス展開に役立つと感じました。

- ・第4次産業革命が起きていて、日本はまだそれを認識できていない・遅れているということ
- ・鳥の目（全体）・虫の目（現場）・魚の目（流れ）で世界を捉えること
- ・世界情勢について自身がほとんど無知であることを再認識した

人生100年時代を残りの人生15年スケールで考えたら第4ステージに立ったばかりでこれからの15年をどのように自身がキャリアアップ繋げていけるか考える時間となりました。現場の実行力に加え想像力と変革力の強化がキーだと思いました。常に時代は流れグローバルな技術革新（AI・自動化）が進んでる中、技術革新では代替できない共感力・創造性・問題定義能力・互換や運動・論理的/最終判断力といった人間特有のスキルに加えAIを使いこなすためのデジタルリテラシーを身に付けることが重要だと考えます。今回の講義で世界の変化をスケール単位で学び時代の変化は他人ごとではないという事を実感し変化の激しい時代だからこそ意識と行動が必要不可欠であり今後の世界の変化に意識を傾けていこうと考える時間となりました。

時間軸と空間軸を広げて世界を捉える「グローバル思考」の重要性を学びました。特に、1年・15年・100年といったスケール単位で歴史を俯瞰する手法は、物事や流れを理解する上で非常に有効だと感じました。また各国の歴史的背景や文化が現在の国際情勢に影響していることを知り、背景を正しく把握することで、各国の言動の理由を予測できるという視点も得ることができました。過去から今を構造的に捉えることで、漠然としていた「VUCAの時代」をよりリアルに感じることができました。現在進めている中期経営計画の策定業務において、これまでは「未来のみ」に焦点を当てて施策を検討することが多かったのですが、今後は過去の出来事をスケール単位で捉えた上で未来を予測するという考え方を取り入れたいと思います。

現在の世界情勢や技術の発展が、異なる時間軸で見るといかに急速に変化・発展しているかを改めて実感致しました。

空間軸と時間軸で捉える視点は気づきになりました。空間軸の側面からは、日本に近い国（中国・韓国・ASEAN）は深く理解し、遠い国は構造を押さえればよいという「距離で読む」視点を学びました。また、時間軸の側面からは、現在の地点から近い順に考えるという発想を得ました。私自身、つい「短期的」なものの見方をしてしまいがちでしたが、「空間軸・時間軸」の視点を活用することで、情報の整理や優先順位付けがしやすくなったと感じました。

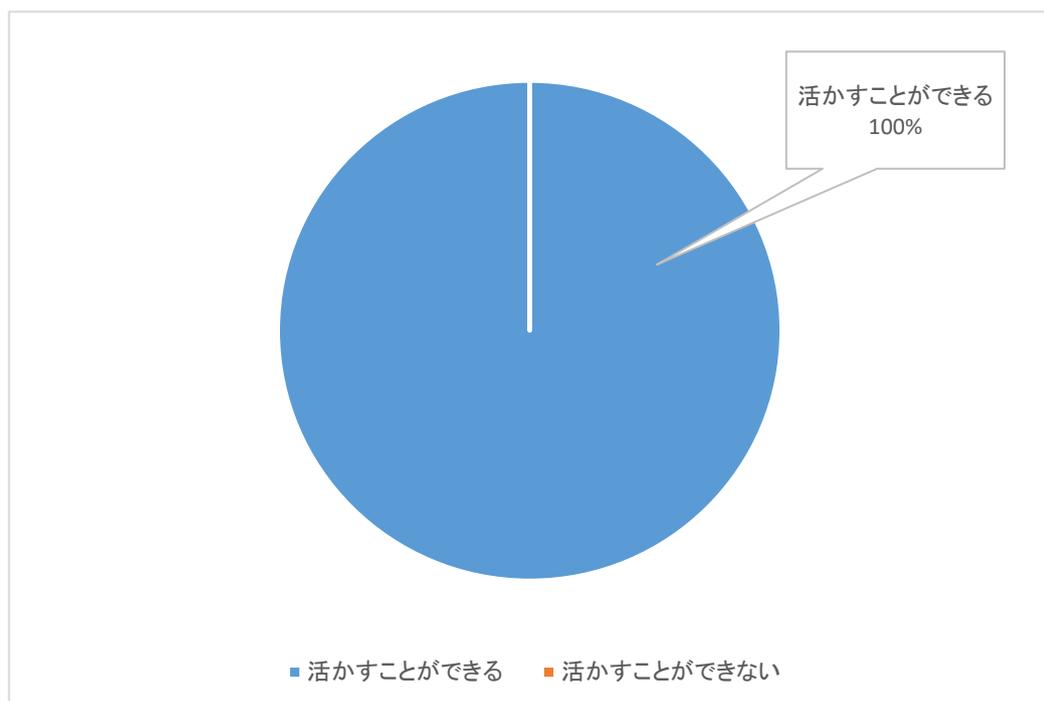
空間的視点〈世界を距離で読むこと〉・時間的視点をもつことで、自分が行動するヒントになる点。

空間スケールにおいては、国や地域について端的にお話しいただきましたが、自身の持つ知識はほんの一部であること、いかに多面的に物事を捉えられていないかを痛感しました。

また時間スケールにおいては、15年ごとの大きな時代の変化を可視化することで、時代の波を捉えることの重要性を認識し、自分自身も5年後、15年後に備え、何をしていく必要があるのかを改めて考えさせられる時間でした。

鳥瞰は一朝一夕にできることではなく、日々興味を持って自分から情報を取りに行くように心がけます。

(3) 世界情勢の学びを、ご自分の仕事に活かすことができますか。【活かすことができる、活かすことができない】



(4) 本日の講義に関して、もっと学びたい点をお聞かせください。

現在の業務に関連するAIやデジタル技術の進化は非常に速く、多くの最新技術やサービスは海外で生まれているため、国内事例だけでなく、世界の大きなトレンドや各国の政策・社会課題を幅広いスケールで把握することが不可欠だと改めて感じました。今後は、AIについて先進的な国の技術動向や事例、世界の変化がAI活用に与える影響など、業務に関連することを広い視野で学んでいきたいです。

業務に関わる世界のトレンドを俯瞰して、自分の行動にどう繋げていくかというところをもっと学びたいです。先生ご自身もこれから新しいことにチャレンジされるとおっしゃっていたので、これまでの豊富な経験について、どのように感じて行動されてきたのかをお聞きしたいです。

環インド洋経済圏の動きと中東の紛争関係。

中国の情勢や経済動向について、もっと深く学びたいと思いました。

世界各国・各地域の特徴や現状、問題点を簡潔に教えていただいた内容が、とても興味深かったので、もっと詳しく知りたいと思いました。時間が許せば先生のお話をもっと伺いたかったです。

人事で採用業務を担当しています。外国籍社員を採用したり、同僚が外国籍の方であるなど、国や地域の多様化が身近にあります。職場が今後ますます多様化していくことを考えたりと、世界情勢の学びや理解への理解がより重要になってくると感じています。世界情勢の他には、グローバル文化の理解や人材活用戦略などの講義内容なども聞いてみたいと思いました。

グローバルの中でのこれからの日本の立ち位置、取り組むべき課題など、先生のご意見・お考えも知りたいです。

短い時間軸で物事を観察すると、少し先に起こりうるが見えてくるという話がありました。気づききっかけやどういった点に注意すればいいのか等を学びたいと思いました。トレーニングが必要かとも思いますので、今後はそういった点で物事見るように心がけたいと思いました。

物事を時間軸と空間軸で適切に把握・理解することの重要性は理解できましたが、それを自身で実践できるようになるトレーニング方法のようなものや日常で取り組めることが何かあればぜひ知りたいです。

これからも続く社会の変化スピードに対応できるよう、どう準備しておくべきか（心構え含む）、もっと掘り下げたお話を聞いてみたいと思いました。特に日々の情報収集の方法や、具体的な実践方法について学びたいです。

・AIはじめ、今後の産業についてさらに学びたいと思いました。

今後の日本と中国の関係をどう予測するか。

これからの社会で重要となるトレンドについてさらに深く学びたいです。特に持続可能な開発目標（SDGs）、経済について自由貿易等の課題に対して今後どうなっていくか、ウェルビーイングと働き方の変化など、実際の事例や今後の展望について知識を広げたいです。

世界情勢を網羅した今回の講義は、とても興味深く聴かせていただきました。普段から新聞などで世界の動きをチェックしているつもりでしたが、業務に直接関係する地域以外については、思った以上に知識が浅いことに気づきました。特に、今後の発展が期待されるアフリカについては、もっと学んでいきたいと強く感じました。また、各地域の出来事はニュースとして把握していても、それぞれのつながりや背景については、あまり意識できていなかったことにも気づきました。どうしても「スポットでの変化」ばかりに目を奪われていたように思います。コロナ以降、世界は大きく変化していますが、その変化が今後どのような影響を及ぼすのか、そして変化の中には多くのチャンスがあるという視点を持つことが大切だと感じました。この気づきを忘れず、今後の生き方や仕事に活かしていきたいと思います。

時間軸の考え方は非常に興味深く、特に「時間を近いところから見ていく」という発想が印象的でした。ただ、5つのスケールのうち、私が理解しやすかったのは「1年スケール」と「人生スケール」で、その他のスケールは難しく感じました。長期的な視点をビジネスや社会の変化にどう結び付けるか、具体的な事例を交えて学ぶ機会があれば良いと感じました。

自由貿易体制が後退しつつある中で、どのように国際協調を維持できるのかについて

自由貿易VS保護貿易について 2025年現在の最新動向を踏まえ複雑な貿易環境を学びたい

過去の歴史をスケール単位でグルーピングし、現状を分析する手法は理解できました。それをどのように具体的な未来予測へ繋げるべきかをより深く学びたいと思いました。歴史は繰り返すものなのか、あるいはVUCAの時代特有の予測不能な事態が続くのか、その判断基準や予測の正確性を高めるためにはどのような考え方が必要か、について学びたいと思いました。

Society5.0時代の経済学について

諸外国の状況を端的にまとめながら、歴史的背景やそれぞれの関係性についてわかりやすく解説していただき、理解を深めることができました。また、現在の国際情勢が過去の出来事や長期的なトレンドとどのようにつながっているのかを俯瞰してみることができ、ニュースや日常の情報をより広い視野で捉える重要性を実感しました。さらに、米中対立やASEANの成長戦略、ヨーロッパの分断と統合の動きなど、諸外国間の関係性や動向についても、学びを深めたいと感じました。

キャリア形成において、ウェルビーイングの考え方や手法をより具体的に学びたいと思いました。

近い国は「深く」、遠い国は「広く」が印象に残り、中国や韓国、北朝鮮といった近隣諸国についてもっと深く学びたいと思いました。